

2007年3月期 中間報告書

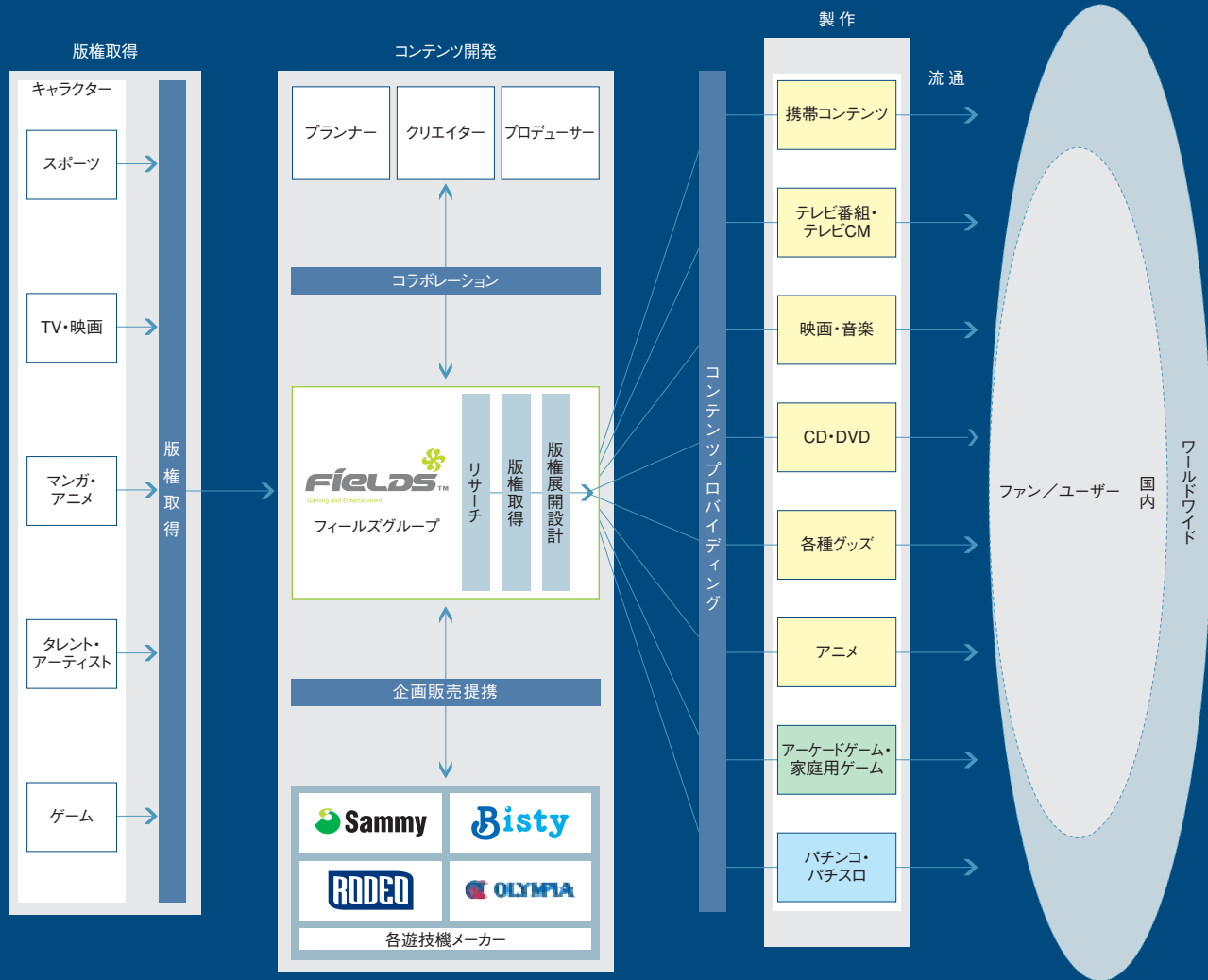
2006年4月1日～2006年9月30日

フィールズ株式会社 証券コード:2767

2007

コンテンツプロバイダーへ。

当社は企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて、パチンコ・パチスロ分野を起点に、多様なエンタテインメント分野へ事業領域を拡大しました。その中核的な強み形成の基幹エンジンを「コンテンツビジネス」と位置づけ、一次コンテンツを創出すると同時に、多元的な二次利用を目的とする商品化権を取得し、それらコンテンツを戦略的なマーケティングに基づく綿密な展開設計により多様なメディアに展開する事業をグループ企業の総力をあげて推進しています。



グループ価値の最大化を追求し、 着実に市場競争力の強化を図っています。



代表取締役社長 **山本 英俊**

当社は、一次コンテンツの創出、多角的な二次利用を目的とした商品化権の獲得を積極的に展開し、パチンコ・パチスロ、ゲームをはじめとする多様なメディアに提供する事業を推進しています。そのために、コンテンツビジネス市場における競争力向上を目指し、M&Aなどを通じて幅広いエンタテインメント分野にわたるグループを形成し、3つのセグメント分野で事業を展開しています。

PS・フィールドにおいては、当期より(株)オリンピアとの本格的なコラボレーションを開始し、商品供給ラインをさらに強化したほか、引き続き有力コンテンツを活かした遊技機を積極的に市場投入しました。また、液晶画面の大型化や画像チップの高性能化に伴いコンテンツの表現力が問われる中で、従来への企画、販売に加え、遊技機やゲームの画像ソフトウェア開発までを担うグループ体制を構築しました。

ゲーム・フィールドにおいては、子会社である(株)ディースリーが当期より持株会社制に移行し、グローバルコンテンツの展開に向けた取り組みを本格化させています。同時に、当社とのシナジー効果を高めながら、利益の最大化を推進しています。

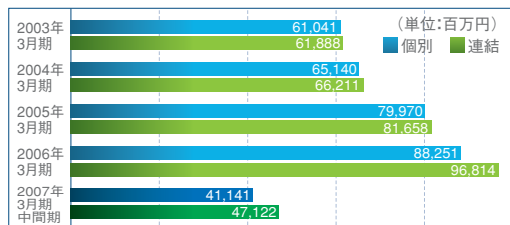
その他フィールドにおいては、ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)、(株)角川春樹事務所に加え、映画やアニメーションなどの有力コンテンツの創出を目的としたフィールズピクチャーズ(株)が事業を開始しました。各社がそれぞれの分野で独自に事業の拡大を図ると同時に、それらコンテンツを遊技機、ゲームソフトに有効に活用することでグループ価値の最大化を図っていきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

当中間期の連結営業概況

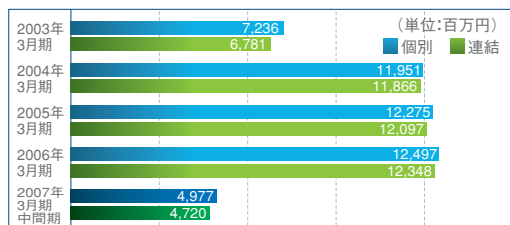
財務ハイライト

売上高



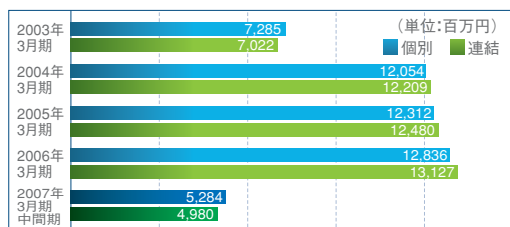
売上高は、前年同期比11,375百万円(31.8%)増加の47,122百万円となりました。PS・フィールドは、前年同期に比較して販売台数がパチンコ遊技機で約5万台、パチスロ遊技機で約2万台増加したことにより、40,966百万円となりました。ゲーム・フィールドも北米を中心に販売が順調に推移し3,878百万円となりました。その他フィールドは、ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)を中心に2,277百万円の売上高となりました。

営業利益



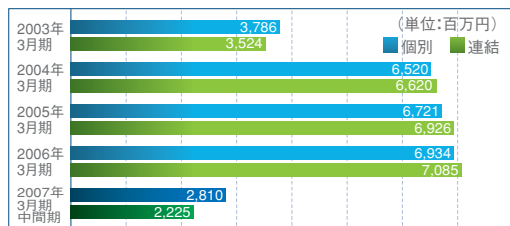
営業利益は、前年同期比3,257百万円(222.7%)増加の4,720百万円となりました。PS・フィールドは、販売促進費の増加等があったものの、経費増加を上回る売上拡大効果があったことから5,026百万円となりました。ゲーム・フィールドは、「NARUTO」シリーズの販売が好調だったものの、「のれん」の償却費負担などから81百万円の営業損失を計上しました。その他フィールドは、トータル・ワークアウトにおいて後発店舗の立ち上げりが低調であることに加え、フィールズピクチャーズ(株)を立ち上げたことなどにより286百万円の営業損失を計上しました。

経常利益



経常利益は、営業利益の増加に伴い前年同期比3,174百万円(175.7%)増加の4,980百万円となりました。なお、営業外収益は前年同期比79百万円減少し292百万円となりましたが、これは、主に持分法による投資損益が前年同期に比較して減少したことによるものです。また、営業外費用は支払利息の増加により前年同期比3百万円増加の32百万円となりました。

当中間期純利益



当期純利益は、前年同期比1,264百万円(131.6%)増加の2,225百万円となりました。特別利益として、貸倒引当金戻入益91百万円、匿名組合投資利益37百万円の計129百万円を、特別損失として子会社での減損損失44百万円、ゲームソフトの製作中止損失等30百万円など計84百万円を計上しました。

グループ・ストラクチャー







PS・フィールド

フィールズ(株)
 フィールズジュニア(株)
 (株)ロデオ 
 (株)デジタルロード 

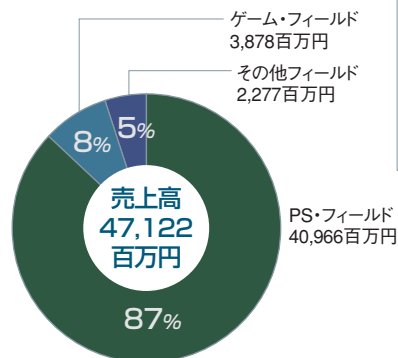
ゲーム・フィールド

(株)ディースリー 
 (株)ディースリー・パブリッシャー 
 (株)エンターテインメント・ソフトウェア・パブリッシング 
 D3Publisher of America, Inc.
 D3Publisher of Europe Ltd.
 D3DB S.r.l.
 (株)シンクアーツ 

その他フィールド

ジャパン・スポーツ・マーケティング(株) 
 (株)角川春樹事務所 
 ホワイトトラッシュチャームズジャパン(株) 
 (株)データベース
 フィールズピクチャーズ(株)
 ジー・アンド・イー(株) 
 (株)エイブ

セグメント別売上高比率



有力デジタルコンテンツの創出へ。

遊技機の液晶画面の大型化や画像チップの高性能化に伴い、表現されるコンテンツの重要性が高まる中、当社は、戦略的なマーケティングに基づいて、商業的に価値の高いコンテンツを創出・獲得する活動を推進しています。さらに、それらを価値の高いデジタルコンテンツとして作りこむために、遊技機・ゲーム用画像ソフトウェア

開発を行うグループ企業との有機的な連携を強化しています。

営業体制においては、顧客パチンコホールとの取引関係を見直し、未取引ホールへのアプローチと年間取引回数の向上を図り、当社が商品企画・開発を行う魅力的な商品を提供するとともに、付加価値の高い提案営業を行っています。

パチンコ遊技機販売事業

幅広いジャンルの大型タイトルを積極投入。

前期からの継続販売である(株)ビスティ製「CR新世紀エヴァンゲリオン・セカンドインパクト」(累計約16万台販売)が引き続き販売台数を伸ばしたほか、(株)コーエーの人気ゲームコンテンツを用いた「CR真・三國無双」、現役トップアイドルをコンテンツとした「CR松浦亜弥」など幅広いジャンルにおける大型タイトルを積極的に投入した結果、総販売台数は、前年同期比約65%増の拡販となりました。

下半期においては、多様化するニーズに応えるために、追加タイトルの投入や大型商品化権を使用したシリーズ機の販売を予定するほか、(株)オリンピアとの提携による新ブランド「ゴールド・オリンピア」のパチンコ遊技機販売を予定しています。これにより、商品の供給体制が3ライン体制へと拡大し、さらなる商品ラインアップの充実を図っていきます。

主な発売タイトル

サミー(株)製



「CRガメラエクストリームパロル」

©角川ヘラルド映画
©1995角川ヘラルド映画NH
©1996角川ヘラルド映画NHFN
©1999角川ヘラルド映画TNHN
©Sammy

(株)ビスティ製

<前期継続販売>



「CR新世紀エヴァンゲリオン・セカンドインパクト」

©GAINAX / Project Eva.・テレビ東京



「CR真・三國無双」

©KOEI Co., Ltd. All rights reserved.



「CR男一匹ガキ大将」

©本宮ひろ志/集英社/FIELDS
©Sammy



「CR松浦亜弥」

©UP-FRONT AGENCY

TOPICS

(株) オリンピアとの本格的コラボレーション始動!

当社は、新たにパチスロ遊技機の老舗メーカーとして20余年にわたって市場をリードしてきた(株) オリンピアと業務提携しました。提携商品は、当社が商品化権および商品企画を提供し、(株) オリンピアが開発・製造を行い、当社が総発売元となる「ゴールド・オリンピア」ブランドとして発売していきます。

上半期には、第1弾としてパチスロ遊技機を販売しました。下半期には、パチンコ遊技機の販売も予定しています。

It's Fantastic!
GOLD OLYMPIA

パチスロ遊技機販売事業

新規則対応の魅力的なパチスロ遊技機の投入を加速。

前期からの継続販売である(株) ロデオ製「俺の空」(累計約13万台販売)が引き続き販売台数を伸ばし、投入時期を早めた(株) ビスティ製「トゥームレイダー」が中間期業績に貢献したほか、新規提携先である(株) オリンピアとの本格的コラボレーション第1弾となる新規則対応パチスロ遊技機「ルーニー・チューンズ:バック・イン・アクション」および旧規則対応パチスロ遊技機「キングオブマウス」を発売し販売ラインアップを拡充した結果、総販売台数は、前年同

期比約25%増の拡販となりました。

当市場においては、既に新規則対応パチスロ遊技機からヒット機種が現れるなど、今後、旧規則対応パチスロ遊技機からの入替が本格化していく傾向を見据え、魅力的なコンテンツを搭載した新規則対応パチスロ遊技機を豊富にラインアップしており、需要が増加してくる下半期から精力的に投入することで、さらなる拡販を目指していきます。

主な発売タイトル

(株) ロデオ製

< 前期継続販売 >



「俺の空」

©宮本宮ひろ志/集英社/FIELDS
©Sammy/RODEO

(株) ビスティ製



「ロードオブザリング」

©MMV New Line Productions, Inc. All Rights Reserved. "The Lord of the Rings; The Return of the King" and the names of the characters, items, events and places therein are trademarks of The Saul Zaentz Company d/b/a Tolkien Enterprises under license to New Line Productions, Inc.



「トゥームレイダー」

©2006 Core Design Ltd. Lara Croft and Tomb Raider are trademarks of Core Design Ltd. All rights reserved. Eidos and the Eidos logo are trademarks of the SCI Entertainment Group. All rights reserved.

(株) オリンピア製



「ルーニー・チューンズ:バック・イン・アクション」

TM&©Warner Bros. Entertainment Inc. (s06)



「キングオブマウス」

グローバルコンテンツにより欧米市場への本格参入へ。

(株)ディースリーは、当期より持株会社制に移行し、日米欧をまたぐグローバル市場におけるプラットフォームの下でバラエティに富んだゲームソフトの企画・開発・流通を一元的に手掛けています。

国内においては、『SIMPLEシリーズ』の新たなライトユーザーを獲得するため、『SIMPLE DS シリーズ』を中心に、主要なハードにおいてバラエティ豊かな商品を継続して発売するほか、エンタテインメント性の高いフルプライスゲームソフトや各携帯電話キャリア向け低価格ゲームコンテンツ『SIMPLE100シリーズ』の制作、販売に注力しています。

北米・欧州における海外展開においては、現地法人との連携強化により、地域特性を考慮した戦略的事業展開に向けた先行投資を行っており、下半期は、2006年11月に欧米で公開が予定されている映画「Flushed Away」(邦題「マウス・タウン ロディとリタの

大冒険」)の商品化権を利用したフルプライスゲームソフトなど、ワールドワイドな展開による売上高の増加を見込んでいます。また、北米で展開している「NARUTO」シリーズについては、当中間期に一部タイトルを前倒しましたが、下半期以降も引き続き好調な販売が見込める状況となっています。



「必勝パチンコ★パチスロシリーズ」エヴァンゲリオン

© Bisy
© GAINAX/Project Eva. ・テレビ東京
© D3 PUBLISHER



「NARUTO」

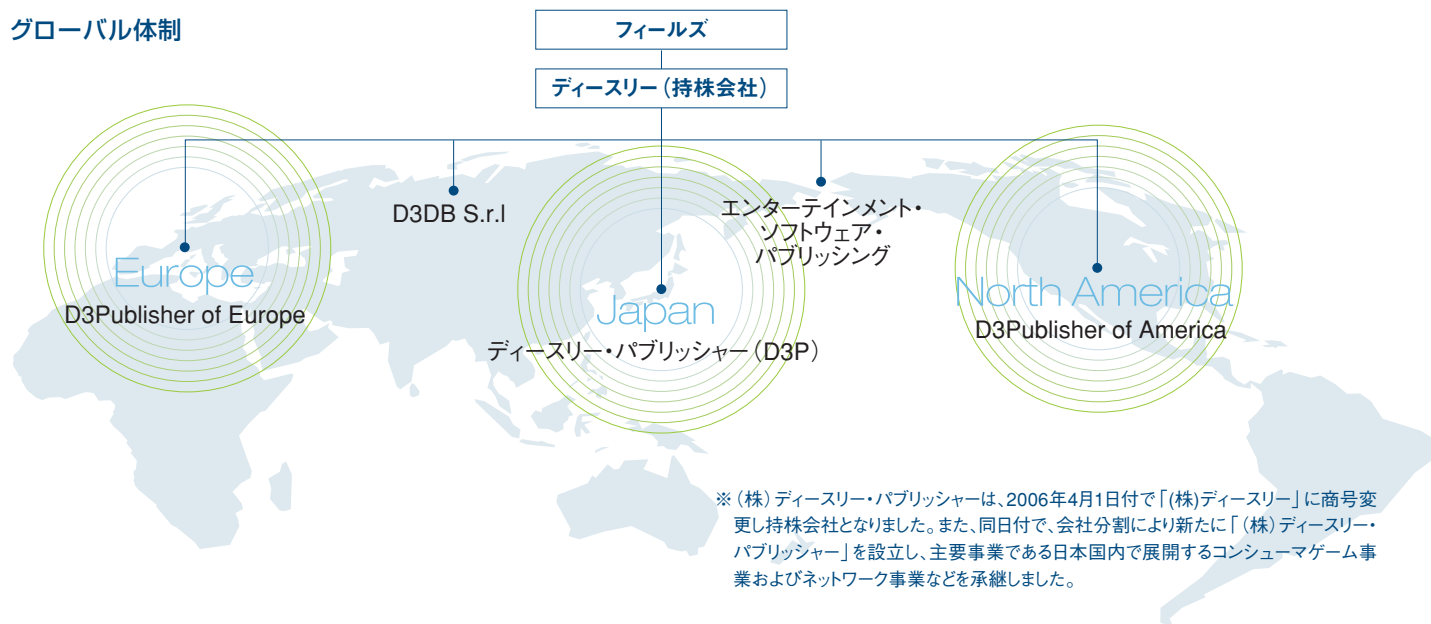
NARUTO ©2002
MASASHI KISHIMOTO
Clash of Ninja 2 ©2003 TOMY
Ninja Council 2 ©2004 TOMY



「Flushed Away」

Flushed Away ©2006 DreamWorks Animation L.L.C. and Aardman Animations Ltd.
Flushed Away™ 2006 DreamWorks Animation L.L.C.
Flushed Away™, and its associated characters and names are trademarks or registered trademarks of DreamWorks Animation L.L.C. and used under license.

グローバル体制



※ (株)ディースリー・パブリッシャーは、2006年4月1日付で「(株)ディースリー」に商号変更し持株会社となりました。また、同日付で、会社分割により新たに「(株)ディースリー・パブリッシャー」を設立し、主要事業である日本国内で展開するコンシューマゲーム事業およびネットワーク事業などを承継しました。

コンテンツ市場への多彩なアプローチを本格的に展開。

ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)においては、2005年10月の経営統合後約1年が経過し、各事業部間の業務整理および見直しを図り、新たな事業計画の基に事業を展開しています。ライツ事業において、2006年6月のドイツにおけるワールドカップへの参加国を決めるためのAFC アジアカップなど、様々なイベントのスポンサーシップや放映権を中心とした事業を積極的に展開しました。今後は、アスリート事業及びライツ事業の営業力の強化を図るとともに、商品パッケージの開発など商品企画力の強化に努めていきます。

(株)角川春樹事務所においては、主力商品である若年層向け雑誌に加え、大ヒットを記録した映画「男たちの大和/YAMATO」の関連書籍の販売が好調に推移しました。また、来春公開予定の映画「蒼き狼 地果て海尽きるまで」においては、原作の提供はもとより

製作委員会の主幹事を務めるなど、出版・映画・音楽のメディアミックス戦略を積極的に展開しています。

これらに加え、映画やアニメーションなどの有力コンテンツの創出を目的とした投資を主体とするフィールズピクチャーズ(株)が当中間期より新たに連結されており、今後、当社グループの一次コンテンツの創出を担い、来期以降の投資回収を見込んでいます。

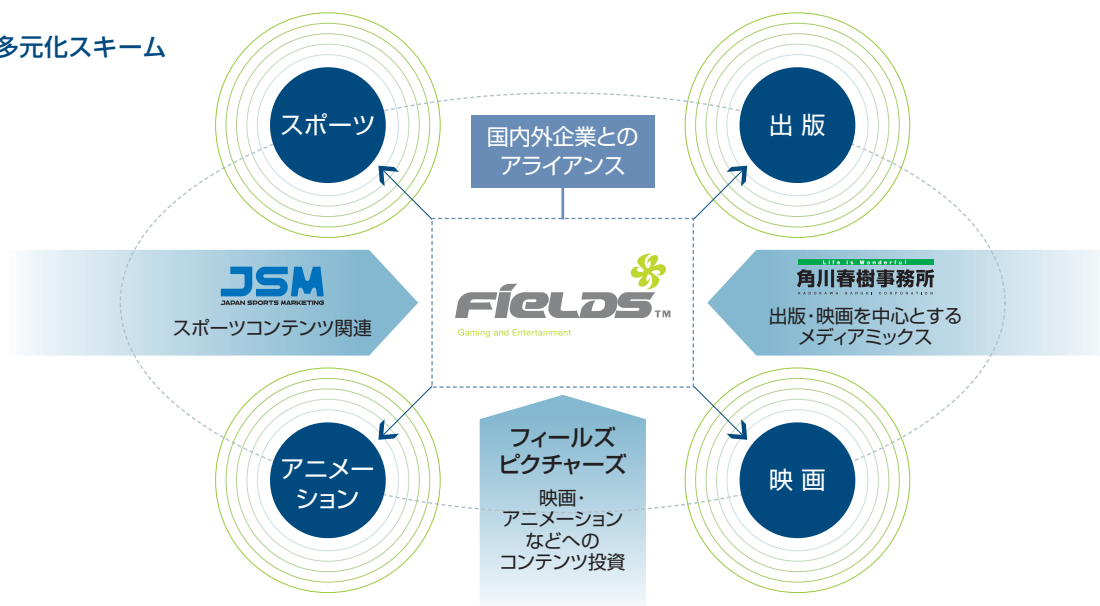


「A3 チャンピオンズカップ」



「蒼き狼 地果て海尽きるまで」

コンテンツ多元化スキーム



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間末 2005年9月30日現在	当中間連結会計期間末 2006年9月30日現在
資産の部		
流動資産	32,997,109	51,640,164
現金及び預金	16,162,238	18,568,634
受取手形及び売掛金	10,002,542	24,111,565
たな卸資産	361,469	2,844,322
商品化権前渡金	3,605,657	—
その他	2,916,381	6,165,173
貸倒引当金	△ 51,180	△ 49,530
固定資産	17,544,382	18,155,138
有形固定資産	4,838,439	4,574,305
無形固定資産	3,025,352	3,350,065
のれん	—	1,626,741
その他	—	1,723,324
投資その他の資産	9,680,590	10,230,767
投資有価証券	6,343,055	6,618,605
その他	3,661,749	3,768,839
貸倒引当金	△ 324,215	△ 156,677
資産合計	50,541,491	69,795,303
負債の部		
流動負債	10,633,868	22,757,990
買掛金	6,320,750	14,835,970
短期借入金	430,000	1,634,200
1年内返済予定長期借入金	248,668	935,722
1年内償還予定社債	50,000	120,000
賞与引当金	27,512	25,000
役員賞与引当金	—	50,000
その他	3,556,938	5,157,097
固定負債	4,214,327	4,840,981
社債	550,000	430,000
長期借入金	474,331	1,688,816
退職給付引当金	182,464	179,376
役員退職慰労引当金	576,900	—
その他	2,430,631	2,542,789
負債合計	14,848,196	27,598,972

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間末 2005年9月30日現在	当中間連結会計期間末 2006年9月30日現在
少数株主持分		
少数株主持分	1,800,520	—
資本の部		
資本金	7,948,036	—
資本剰余金	7,994,953	—
利益剰余金	17,295,534	—
その他有価証券評価差額金	648,573	—
為替換算調整勘定	5,676	—
資本合計	33,892,774	—
負債、少数株主持分及び資本合計	50,541,491	—
純資産の部		
株主資本	—	40,096,121
資本金	—	7,948,036
資本剰余金	—	7,994,953
利益剰余金	—	24,153,131
評価・換算差額等	—	492,162
その他有価証券評価差額金	—	485,012
為替換算調整勘定	—	7,150
少数株主持分	—	1,608,047
純資産合計	—	42,196,331
負債及び純資産合計	—	69,795,303

(注) 表示方法の変更
(中間連結貸借対照)

前中間連結会計期間末まで流動資産において区分掲記しておりました「商品化権前渡金」は資産の総額の100分の5以下となったため、流動資産の「その他」に含めて表示することにいたしました。なお、当中間連結会計期間末の「商品化権前渡金」の金額は3,128,708千円であります。
前中間連結会計期間末まで「無形固定資産」に含めて表示しておりました連結調整勘定(前中間連結会計年度 1,600,689千円)については、中間連結財務諸表規則の改正に伴い、「のれん」として区分掲記しています。

(注) 会計処理の変更

(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準)

当中間連結会計期間から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しています。

なお、従来の「資本の部」の合計に相当する金額は40,588,283千円であります。また、中間連結財務諸表規則の改正により、当中間連結会計期間における中間連結貸借対照表の純資産の部については、改正後の中間連結財務諸表規則により作成しています。

中間連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
	2005年4月1日~2005年9月30日	2006年4月1日~2006年9月30日
売上高	35,746,482	47,122,183
売上原価	26,381,039	33,071,677
売上総利益	9,365,442	14,050,506
販売費及び一般管理費	7,902,682	9,329,941
営業利益	1,462,760	4,720,564
営業外収益	372,159	292,271
営業外費用	28,605	32,152
経常利益	1,806,314	4,980,682
特別利益	154,669	129,563
特別損失	201,224	84,092
税金等調整前中間純利益	1,759,760	5,026,154
法人税、住民税及び事業税	973,385	2,578,204
法人税等調整額	△112,245	220,714
少数株主利益又は損失(△)	△62,439	1,572
中間純利益	961,059	2,225,661

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
	2005年4月1日~2005年9月30日	2006年4月1日~2006年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,607,705	2,316,755
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,784,685	△1,528,289
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,017,691	1,992,541
現金及び現金同等物に係る換算差額	29,264	9,125
現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	2,834,593	2,790,132
現金及び現金同等物の期首残高	13,326,256	15,777,313
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	1,388	188
現金及び現金同等物の中間期末残高	16,162,238	18,567,634

中間連結株主資本等変動計算書 (2006年4月1日~2006年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2006年3月31日残高	7,948,036	7,994,953	22,726,469	38,669,459	735,622	6,470	742,093	1,610,739	41,022,292
中間連結会計期間中の変動額									
新株の発行	—	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△694,000	△694,000	—	—	—	—	△694,000
役員賞与	—	—	△105,000	△105,000	—	—	—	—	△105,000
中間純利益	—	—	2,225,661	2,225,661	—	—	—	—	2,225,661
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	△250,610	680	△249,930	△2,692	△252,623
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	1,426,661	1,426,661	△250,610	680	△249,930	△2,692	1,174,038
2006年9月30日残高	7,948,036	7,994,953	24,153,131	40,096,121	485,012	7,150	492,162	1,608,047	42,196,331

個別中間財務諸表等

中間貸借対照表

(単位:千円)

科目	前中間会計期間末 2005年9月30日現在	当中間会計期間末 2006年9月30日現在
資産の部		
流動資産	27,778,238	42,100,451
固定資産	17,733,794	19,179,327
有形固定資産	4,034,834	3,880,056
無形固定資産	898,773	1,597,873
投資その他の資産	12,800,185	13,701,398
資産合計	45,512,032	61,279,779
負債の部		
流動負債	8,232,919	17,569,294
固定負債	3,154,805	2,706,912
負債合計	11,387,724	20,276,206
資本の部		
資本金	7,948,036	—
資本剰余金	7,994,953	—
利益剰余金	17,532,744	—
その他有価証券評価差額金	648,573	—
資本合計	34,124,308	—
負債・資本合計	45,512,032	—
純資産の部		
株主資本	—	40,518,560
資本金	—	7,948,036
資本剰余金	—	7,994,953
利益剰余金	—	24,575,570
評価・換算差額等	—	485,012
その他有価証券評価差額金	—	485,012
純資産合計	—	41,003,572
負債・純資産合計	—	61,279,779

中間損益計算書

(単位:千円)

科目	前中間会計期間 2005年4月1日~2005年9月30日	当中間会計期間 2006年4月1日~2006年9月30日
売上高	33,077,297	41,141,324
売上原価	24,831,827	28,789,862
売上総利益	8,245,470	12,351,462
販売費及び一般管理費	6,538,547	7,373,800
営業利益	1,706,922	4,977,661
営業外収益	283,145	309,193
営業外費用	8,053	2,244
経常利益	1,982,015	5,284,610
特別利益	349,669	132,351
特別損失	365,792	7,363
税引前中間純利益	1,965,891	5,409,598
法人税、住民税及び事業税	830,925	2,296,389
法人税等調整額	△74,696	302,334
中間純利益	1,209,662	2,810,874
前期繰越利益	1,313,502	—
中間配当額	—	—
中間未処分利益	2,523,164	—

(注)会計処理の変更

(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準)

当中間会計期間から、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しています。

なお、従来の「資本の部」の合計に相当する金額は41,003,572千円であります。また、中間財務諸表等規程の改正により、当中間会計期間における中間貸借対照表は、改正後の中間財務諸表等規程により作成しています。

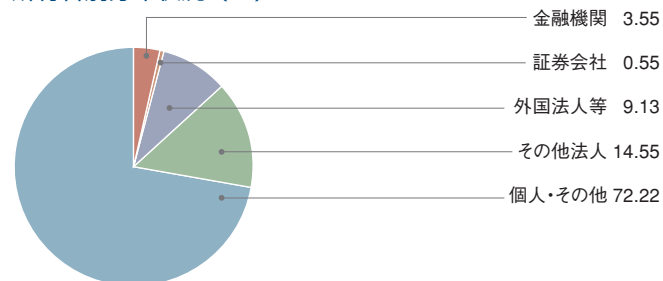
株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
株主数	10,049名

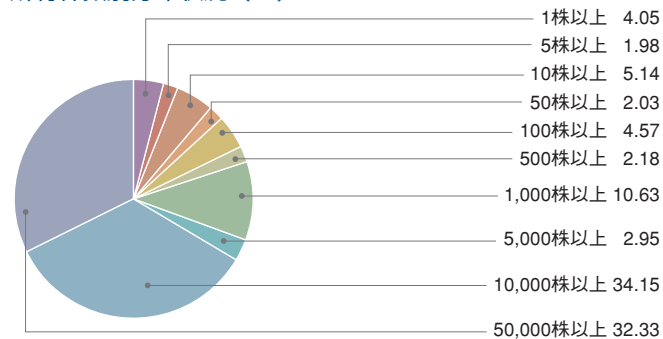
大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	112,200	32.33
山本 剛史	40,000	11.53
山本 洋子	35,000	10.09
サミー株式会社	27,500	7.93
有限会社ミント	16,000	4.61
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	5,223	1.51
山本 優希	5,000	1.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,614	1.33
シーエムビーエルエスエーリミューチャルファンド	4,441	1.28
資産管理サービス信託銀行株式会社	2,990	0.86

所有者別分布状況(%)



所有株数別分布状況(%)



会社概要

商号 フィールズ株式会社 (英訳名: FIELDS CORPORATION)

企業理念 「すべての人に最高の余暇を」

設立 1988年6月 (1983年に東洋商事の名で事業を開始)

本社所在地 〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号
E・スペースタワー12階

事業内容 1) 遊技機の企画開発
2) 遊技機の仕入、販売
3) キャラクター、コンテンツの企画開発、販売
4) 映像ソフトの企画開発、販売

取締役及び監査役	代表取締役社長	山本 英俊
	取締役副社長 グループ戦略統括本部長	猪熊 洋文
	専務取締役 事業統括本部長	松井 一夫
	専務取締役 事業統括本部副本部長兼開発本部長	江川 正行
	常務取締役 事業統括本部副本部長	秋山 清晴
	取締役 計画管理本部長	山中 裕之
	取締役 社長室長	末永 徹
	取締役	糸井 重里
	常勤監査役	松下 滋
	監査役	小池 敕夫
	監査役	古田 善香

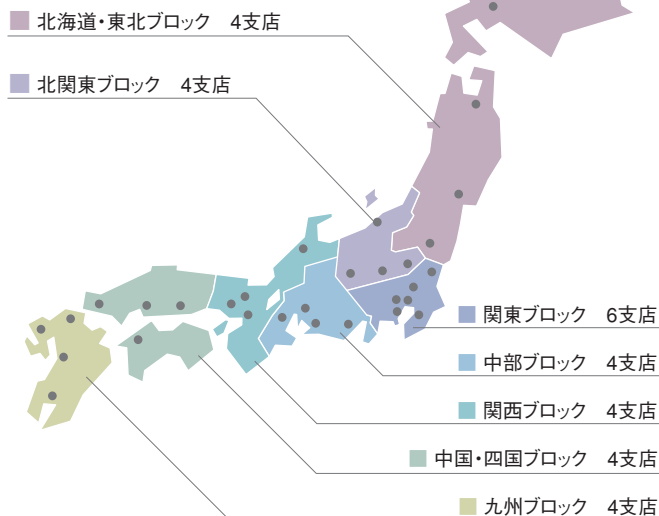
資本金 79億4,803万円

従業員数 1,037名 (連結)

連結対象会社 ジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社
(9月30日現在)
フィールズジュニア株式会社
ホワイトトラッシュチャームズジャパン株式会社
株式会社デジタルロード
株式会社ディースリー (注) 他7社

(注)
株式会社ディースリー・パブリッシャーは、2006年4月より持株会社である「株式会社ディースリー」に移行しています。

全国営業拠点



当社ホームページのご紹介

業績情報やプレスリリースなど、最新の情報を随時発信しています。
ぜひご利用ください。



TOPページ

TOPページアドレス
<http://www.fields.biz>



IRページ

IRページアドレス
<http://www.fields.biz/ir/j>

主要グループ会社一覧

PS・フィールド

株式会社デジタルロード



映像ソフトの企画開発を中心に各種キャラクターのマーチャндаイジングビジネスの企画立案、ブランドマネージメントを行います。パチンコ、パチスロ、各種マーチャндаイジングビジネスに注入し、新たな映像ソフトやキャラクターを創出していきます。



フィールズジュニア株式会社

全国で約1,200名の大学生を登録管理し、パチンコ・パチスロ遊技機の納品設置業務を担当しています。また、全国約1万5,000店舗のパチンコホールを対象にマーケット調査も実施し、新機種の企画開発などにフィードバックしています。



その他フィールド

ジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社

<http://www.jsm.jp>

スポーツイベントのプロデュースや放映権ビジネスをはじめとするスポーツ・マーケティングやスポーツジムの運営など、広範なスポーツ・エンタテインメント事業をグローバルに取り組んでいます。



ホワイトトラッシュチャームズジャパン株式会社

<http://www.whitetrashcharmsjapan.com>

ハリウッド女優や、多くのファッションリーダーたちに愛されているアメリカ西海岸発のアクセサリブランドを展開しています。

2002年4月より日本国内での輸入販売を開始し、2003年4月には、六本木ヒルズ内に直営店をオープンしました。今後は、ますます商品ラインナップを充実させていきます。



フィールズピクチャーズ株式会社

映画やアニメーションなどの有カコンテンツの創出を目的として事業を開始しました。パチンコ・パチスロのみならずゲームなど「デジタルコンテンツ」を軸としたマルチユース化を図り、当社グループの一次コンテンツの創出を担っていきます。

ゲーム・フィールド

株式会社ディースリー (証券コード4311:JASDAQ)

<http://www.d3i.co.jp>

日本、北米、欧州などでワールドワイドに展開するゲーム・パブリッシャーです。当社との緊密な連携による欧米市場における商品化権取得活動の活発化など、コンテンツプロバイダー事業の強化、およびゲームソフトのより迅速な商品企画・開発・販売が可能となります。



ディースリー



株式会社シンクアーツ

<http://www.thinkarts.jp/>

パチンコ・パチスロ遊技機用画像ソフトウェア開発およびゲームソフト開発を行います。(株)デジタルロードとともに価値の高いデジタルコンテンツとして作りこむ体制を構築していきます。



ジー・アンド・イー株式会社

<http://www.g-e.jp/>

(株)SANKYO、サミー(株)、フィールズ(株)の3社の共同資本により設立された、日本初、業界初の総合エンタテインメント企業のための人材育成スクールです。



株式会社角川春樹事務所

<http://www.kadokawaharuki.co.jp/>

出版、映画、音楽など多方面にコンテンツ展開するメディアミックス戦略の先駆者として知られています。当社は同社が保有するコンテンツのマルチユースに関して共同で事業展開すると同時に、同社の各種コンテンツ開発能力を活用して一次コンテンツの創造、一次キャラクターの創出を図っていきます。



※2007年3月期の中間期より、(株)シンクアーツとフィールズピクチャーズ(株)が新規連結子会社となりました。

株主メモ

事業年度末日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 同事務取扱所 〒168-0063 (連絡先・送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	JASDAQ
公 告 方 法	電子公告掲載URL http://www.fields.biz (事故、その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。)

お知らせ

株式に関するお手続き用紙のご請求について

住所変更、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-78-2031 (24時間受付:自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

フィールズ株式会社

〒150-0044

東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー12階

お問い合わせ先 ir@fields.biz